

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	釧路町アイヌ総合施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業)(<u>地域・産業振興事業</u>)(コミュニティ活動支援事業)の別
3 事業の目的	アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域に存するアイヌ文化等を広く発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活性化させ、魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1)地域・産業振興事業</p> <p>①アイヌ語(難読)地名周知拡大事業</p> <p>○事業実施主体 釧路町</p> <p>○事業の実施場所 釧路町内全域</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日～令和5年3月</p> <p>○事業の内容と考え方 当町の地名は、そのほとんどがアイヌ語由来であり、その意味は、その地形や特有の現象を表現したものであり、それに和語を当て現在の地名としているが、難解・難読さでは、全国でも類のない地名群と評価されている。 地名の由来を知ることはアイヌの人々の生活、風俗などを理解することに繋がるため、地名の呼び名と意味を知らしめる看板を設置し、アイヌ語地名の学習、アイヌ地名の周知拡大に向けたPRを行う。 現在、アイヌ語由来の難読地名解説看板は北太平洋シーサイドライン沿いに21か所設置しており、この看板の取り替えとともに、町内全域の難読地名、由来を紹介するため、アイヌ語由来の地名で説明看板が未設置の地名10か所説明看板を設置し、これまでも観光スポットであった「難読地名解説看板」を全町的に拡大し、釧路町を訪れる人に広く周知を行う。 また、アイヌ語難読地名等を紹介するホームページを釧路町公式ホームページ内に開設し、広く周知を行う。 さらに、アイヌ語地名について、その由来を確認・体験できる学習会を開催する。 町内では、毎年、5月～8月に実施している町内イベント(祭り)で難読地名の解説などのアイヌ文化を紹介するブースを設置する際にアイヌ文様が入ったテントを使用する。</p> <p>②アイヌ通送人吉良平治郎殉職記念碑周辺整備事業</p> <p>○事業実施主体 釧路町</p> <p>○事業の実施場所 釧路町宿徳内等</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日～令和5年3月</p> <p>○事業の内容と考え方 吉良平治郎の殉職記念碑周辺は、現在特定の者による管理はされておらず、老朽化が進んでおり、地元アイヌ協会から整備の要望が出されている。 吉良平治郎は、現在も道東のアイヌ民族の誇りであり、記念碑を整備することはアイヌ協会の悲願でもある。 令和4年1月に殉職から100年を迎えるにあたり、殉職の地としての認知や事跡を伝える説明版を設置するなど再整備し、アイヌ協会主導による記念事業を実施する。</p>

	<p>③アイヌ文化財展示スペース設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 釧路町 ○事業の実施場所 釧路町公民館 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和5年3月 ○事業の内容と考え方 昨年度釧路町公民館に整備したアイヌ文化財展示スペースの利用促進と当町ゆかりのアイヌ文化財の保存活用を進めるため、アイヌ関係書籍資料を配架し閲覧貸出しを行うことにより、町民の理解を深めるとともに普及啓発に寄与する。
<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>4-3 観光振興その他産業の振興に資する事業</p> <p>■アイヌ語(難読)地名周知拡大事業</p> <p>当町の地名は、そのほとんどがアイヌ語由来であり、その意味は、その地形や特有の現象を表現したものであり、それに和語を当て現在の地名としているが、難解・難読さでは、全国でも類のない地名群と評価されている。</p> <p>地名の由来を知ることがアイヌの人々の生活、風俗などを理解することに繋がるため、地名の呼び名と意味を知らしめる看板を設置し、アイヌ語地名の学習、アイヌ地名の周知拡大に向けたPRを行う。</p> <p>■ アイヌ文化財展示スペース設置事業</p> <p>現在、ウポポイ(民族共生象徴空間)の施設である国立アイヌ民族博物館に貸し出し中の「アイヌ通送人 吉良平治郎像」(令和3年3月31日返却予定)をはじめとした、当町ゆかりのアイヌ文化財の保存活用を進めるため、釧路町公民館にアイヌ文化財展示スペースの設置に係る施設整備を行う。</p>

6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	<p>(1) 地域・産業振興事業</p> <p>① 釧路町アイヌ語(難読)地名周知拡大事業 アイヌ文化関連の観光プロモーションを実施することによって、釧路町におけるアイヌ文化が広く認知されることから、観光客入込数の増加に寄与する。</p> <p>② アイヌ通送人吉良平治郎殉職記念碑周辺整備事業 地元アイヌ民族が大切にしてきた吉良平治郎の殉職記念碑周辺の整備と殉職から 100 年を迎える殉職の地としての認知や事跡を伝える記念事業を実施することにより、アイヌ民族の歴史や伝統文化に対する町民の理解を深め、アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現に寄与する。</p> <p>③ アイヌ文化財展示スペース設置事業 釧路町公民館にアイヌ文化財展示スペースの設置に係る施設整備を行うことで、当町ゆかりのアイヌ文化財の保存活用を進めることが可能となり、アイヌ文化を肌で感じることのできる機会を継続的に作っていくことが可能となる。</p>
(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>① デジタル郷土読本 WEB(SNS)閲覧数 (現状値) 令和元年度 0 アクセス/年間 (中間目標) 令和 4 年度 800 アクセス/年間 (最終目標) 令和 6 年度 1,000 アクセス/年間 成果目標は達成する見込み。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>① 観光客入込数 (現状値) 令和 2 年度 70,000 人/年間 (中間目標) 令和 4 年度 100,000 人/年間 (最終目標) 令和 6 年度 120,000 人/年間 成果目標は達成する見込み。</p> <p>② アイヌ文化財展示入場者数(公民館来館者数) (現状値) 令和 2 年度 0 人/年間(展示スペース未設置のため) (中間目標) 令和 4 年度 200 人/年間 (最終目標) 令和 6 年度 500 人/年間 成果目標は達成する見込み。</p>
(3) 成果目標の確認方法	<p>目標値及び実績値を公表するとともに、外部有識者などにより目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。</p>
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	<p>釧路湿原国立公園を流れる釧路川の東側丘陵部は、釧路川流域に沿ってチャシ跡も多く存在し、歴史的にアイヌ文化へつながっている。</p> <p>釧路町遠矢(トオヤ)付近には、「遠矢のチャシとタンチョウヅル」というアイヌの物語が伝えられている。この物語からも、この地域が、昔からアイヌと関わりを持っていたことがうかがえる。</p> <p>釧路町内の地名は、アイヌ語から由来する言葉に、漢字(和語)をあてはめたものとされており、「分遺瀬(ワカチャラセ=水が滝となって落ちる所)」、「賤夫向(セキネツプ=樹木の少ない山で石落ちる所)」、「冬窓床(ブイマ=海の中に立っている岩)」、「天寧(テンネル=湿地の路)」、「雪裡太(セチリフト=鳥の巣の多い川口)」、「宿徳内(シュクトクナイ=エゾネギの群生している沢)」、「重蘭窮(チブランケウシ=船を下る所)」などアイヌ語由来の地名が多く残されている。</p> <p>昭和 63 年 3 月「郷土の地名生活文化を知る会」発行の「時空旅行」(郷土史研究家佐藤清八氏監修)では、昆布森海岸の「伏古(フシコ=古い村)」には幕府の旅宿所があり、また「古番屋(フルバンヤ=川下の陸岸が丘になっている所)」には釧路と厚岸の中継拠点である会所があって、良質な昆布を求め多くの人々が移動してきた土地であったことから、和人とアイヌの人々との深いつながりがある町であることがうかがえる。</p> <p>また、釧路には、吉良平治郎というアイヌの人がいた。吉良平治郎は、明治</p>

	<p>19年2月3日に現在の釧路市桂恋で生まれ、大正11年1月、釧路郵便局の臨時遞送人として雇われた。職務は、釧路郵便局と昆布森郵便局間およそ16kmの道のりを郵便物を背負って運ぶことであるが、雇われてから3日後の1月19日、吹雪の中、郵便行のうを背負い、杖をついて釧路郵便局を出発、その途中で暴風雪になり、釧路から約12km進んだ宿徳内(シュクトクナイ=エゾネギの群生している沢)の坂道にさしかかったところ暴風雪が激しくなり、着ていた外套を脱いで郵便物が濡れないように包み、竹の杖を目印に立て郵便物を守り殉職した。平治郎の殉職した場所の近くの小高い丘には釧路郵便局が大正11年に殉職記念碑を建立している。</p> <p>このことは、昭和8年文部省発行の小学校修身書の第10課に「責任」という題で取り上げられ、昭和46年2月発行の小学校第4学年用道徳副読本「新しい生活(北海道版)」にも「吹雪について、吉良平治郎」という題で掲載されており、現在も釧路町教育委員会発行の郷土読本「くしろ」に掲載されている。</p> <p>吉良平治郎は、現在も道東のアイヌ民族の誇りであり、アイヌ民族を中心とした呼びかけにより吉良平治郎の銅像建設の顕彰運動が昭和25年まで続けられるが実現はしていない。</p> <p>なお、北海道白老町に本年4月オープンする「ウポポイ(民族共生象徴空間)」には釧路町教育委員会が所有する「アイヌ遞送人 吉良平治郎像」が展示される予定となっており、当時のアイヌの姿を表現した貴重な像である。</p> <p>釧路町には昭和57年4月北海道ウタリ協会釧路町支部(現・釧路町アイヌ協会)が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図るとともに、アイヌ文化等の発信を行ってきたが、当町におけるアイヌ文化は決して町民に普及しているとはいえない状況にあり、アイヌ文化を肌で感じることのできる機会を継続的に作っていくとともに、ここで暮らす住民が、日常的に、かつ、違和感なくアイヌ文化を受け入れることのできる環境を整備し、特に釧路町の子供たちに伝承していくことが急務と認識している。</p>
(2)施設等の管理運営体制	<p>吉良平治郎殉職記念碑は、現在、特定の者が管理しておらず、整備後は釧路町、釧路東郵便局及びアイヌ関係団体が管理する。</p>
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	<p>釧路町アイヌ協会とは定期的に意見交換を行っている。</p>

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	9,605,000	18,076,000	0	△ 8,471,000
市町村負担額	2,402,000	4,520,000	0	△ 2,118,000
計	12,007,000	22,596,000	0	△ 10,589,000

(2) 支出の部

(単位:円)

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
文化振興事業	0	15,024,000	0	△ 15,024,000
調査費	0	0	0	0
委託料	0	0	0	0
...				
文化振興事業費	0	15,024,000	0	△ 15,024,000
委託料	0	13,502,000	0	△ 13,502,000
報償費	0	0	0	0
需用費	0	0	0	0
借料	0	0	0	0
備品購入費	0	1,522,000	0	△ 1,522,000
...				
市町村事務費	0	0	0	0
職員旅費	0	0	0	0
...				
地域・産業振興事業	12,007,000	7,572,000	4,435,000	0
調査費	0	0	0	0
委託料	0	0	0	0
...				
地域・産業振興事業費	12,007,000	7,572,000	4,435,000	0
委託料	50,000	435,000	0	△ 385,000
報償費	0	0	0	0
需用費	565,000	75,000	490,000	0
借料	0	0	0	0
使用料	132,000	281,000		
工事請負費	11,260,000	5,640,000		
備品購入費	0	1,141,000	0	△ 1,141,000
...				
市町村事務費	0	0	0	0
職員旅費	0	0	0	0
...				

経費区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
コミュニティ活動支援事業	0	0	0	0
調査費	0	0	0	0
委託料	0	0	0	0
…				
コミュニティ活動支援事業費	0	0	0	0
賃金	0	0	0	0
報償費	0	0	0	0
需用費	0	0	0	0
借料	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0
…				
市町村事務費	0	0	0	0
職員旅費	0	0	0	0
…				
合計	12,007,000	22,596,000	0	△ 10,589,000
委託料	50,000	13,937,000	0	△ 13,887,000
賃金	0	0	0	0
報償費	0	0	0	0
需用費	565,000	75,000	490,000	0
借料	0	0	0	0
使用料	132,000	281,000	0	△ 149,000
工事請負費	11,260,000	5,640,000	5,620,000	0
備品購入費	0	2,663,000	0	△ 2,663,000
職員旅費	0	0	0	0